

# 続 水ビジネスの

# 新潮流

11

### 発電造水事業

住友商事の水ビジネス事業の特徴は、各国の地域ごとに最適なパートナーを選択し、市場に参入していることである。同社は水事業のエントリーとして、1999年に英テムズウォーターと共同でトルコ・イズミット市の上下水供給事業を開始し、2000年には仏スエズグループ傘下のデグレモンとメキシコ向け水事業で提携、その成果は04年に3件(サンルイスポトシ市、クリアカン市、フアレス市)の下水処理サービス事業の獲得につながっている。

さらに住友商事は05年、スエズグループと共同でバーレーン・アラブ首長国連邦(UAE)で1500億円規模のIWIハットS3発電プロジェクト(1千億〜4千

成果は08年、アフガビ・UAEのシユワイハットS1のIWP(発電150万キロワット、造水日量46万トン)および11年、アフガビ・UAEのシユワジェクト(1千億〜4千

日量48万トン)の優先交渉権(総事業費1450億円)も獲得している。これもスエズグループと組んでの応札である。中東沿岸諸国では、リーマンショックの影響があったが今後とも電力需要は年率5%程度増加するもの

## 商社の取り組み(その3)住友商事

# 地域ごと最適な相手選択

# 食糧案件と相乗狙う

住友商事の水ビジネス戦略的パートナーの例

国名・地域	戦略的パートナー	提携内容
トルコ	テムズウォーター	イズミット水供給事業
メキシコ	スエズ・デグレモン	自治体向けBOT事業
中東・湾岸諸国	スエズ	IWPP(発電造水事業)
インド	VAテック・ワバック	自治体向け上下水道事業、海外向け
中国	北京キャピタル	JVによるTOT/BOT事業展開

インド国内のみならずワバックの持つノウハウを駆使して中東やアフリカ、アジアなどの水インフラ事業も視野に入れており、この協業が軌道に乗ればワバックとの資本提携についても検討するとしている。

また同年日本政府が推進する官民連携事業としてマレーシア向け上下水道事業で東京都(東京水道サービス)と組み、官民連携水インフラPPPに参画している。

また新規案件として①MENA(オマーン、クウェート)向け大形海水淡水化事業の強化、下水処理事業への進出②欧州水関連企業のM&Aや協業の構築③北米・南米における資源開発関連として

また同社は、中国の食料プロジェクトへの参画に熱心であり、昨年11月には中国最大の農牧企業・新希望集団と食肉事業の提携を発表、また今年4月には吉林糧食集団に出資し、中国国内の玉米の生産から流通までを手掛ける予定である。いずれの提携も「水の安全・安心」がカギであり、今後のビジネス展開が期待されるであろう。

### 今後の海外戦略

住友商事の今年の水ビジネス戦略は、先に述べ

グローバルウォーター・ジャパン代表

よしむら かずなり  
**吉村和就**

エクト(160万キロワット、韓国電力と共同事業)にぎを削っている。

また今年に入り、クウェート初の民営型IWP

150万キロワット、造水

おり世界的な企業がしのぎを削っている。

### 新興市場への攻勢

住友商事は10年9月、発展の著しい中国市場へ

の参入として水事業大手、北京首創(北京キャピタル)と提携し、山東省で2件、浙江省で1件の下水処理事業を手掛けている。同年12月には、

た北京キャピタルとのジョイントベンチャー(JV)による中国国内の水事業アセットの買収や新規物件開拓での受注拡大、またインド戦略では

水・土壌環境

(隔週掲載)